

# 令和4年度 第10回教育委員会定例会

## 日時、場所及び出席者

日時及び場所	出席者	
令和5年1月10日(火)	教育長 坂元 裕人	教育総務課長 野村 宏治
午後 2時00分	教育委員 田原 正人	学校教育課長 今井 誠
↓		
午後 3時40分	教育委員 葛迫 幸平	社会教育課長 港 耕作
第2研修室	教育委員 田之上 厚美	国体推進課長 米田 昭嗣
	教育委員 福里 由加	

## 会議要旨

- 1 開 会  
定刻、定足数に達しており、令和4年度第10回教育委員会定例会を開会した。
- 2 令和4年度第9回定例会会議録の承認について  
承認
- 3 議 事  
議題第1号 垂水市教育支援委員会答申について
- 4 その他
- 5 委員並びに教育長及び課長報告
- 6 閉 会

## 議 決 事 項

件 名	提案理由	審議の状況	採決の次第
議案第1号 垂水市教育支援委員会答申について	垂水市教育支援委員会の答申を受けて、児童生徒の望ましい措置を決定しようとするものである。	特記事項なし	承認

## 議 事 内 容 等

3 議 事	<p><b>議案第1号</b>  <b>垂水市教育支援委員会の答申について</b>                      (非公開)                      (議案第1号 承認)</p>
4 その他	なし
5 委員並びに教育長及び課長報告	委員並びに教育長及び課長報告に入る。
田原委員	<p>成人年齢が18歳に引き下げられたが、今年から垂水市ではこれまでの成人式を「二十歳のつどい」と名称を変え、二十歳になった人達を対象に式典を実施することとなった。</p> <p>当日はとても天気がよく、式典に相応しい日和であったが、なぜか、二十歳の成人の参加者が少ないような感じを受けた。逆に保護者の方々が、たくさん来られていた。しかし、式典が始まってみると、20歳成人の態度は大変すばらしいものであった。また、進行係の落ち着きあるしゃべり方も素晴らしく、式典を引き締めていた。それと何と言っても、やはりこの4人の方々の「はたちの主張」の内容が素晴らしかった。4人とも主張の内容が全てきっちり整っていて、その中に今自分が夢に向かって取り組んでいることやそれに対する決意というか、そのようなものがしっかりと表現されていた。4人とも、「自分を育ててくれた親や周りの人に感謝し、これからは自分の目標とする職業に向かって頑張っていきたい。そして、社会に貢献していきたい。」という非常に若者らしい清々しさを感じる立派な主張だったと思った。</p> <p>また、今年は彼らにとっての小学校、中学校時代の先生方が駆け付けてくださっていた。そして、直接お祝いの言葉を投げかけて下さったことは、彼らにとって大きな喜びだったと思う。短い時間ではあったが、心の込もった温かい雰囲気とする式典であったと思う。計画した実行委員の皆さん、それからそれをしっかり支えて動いて下さった社会教育課の職員の皆様に</p>

心から感謝したいと思います。大変すばらしい式典でした。

葛迫委員

一昨日のことであるが、鹿児島市の与次郎を車で走っていたら、凄く綺麗な振り袖姿の娘さん達が目に付いた。そうか、鹿児島市は「はたちの集い」を今日（8日）やるのかと思いながら車を走らせた。「成人の日」は、第2月曜日で今年は1月9日である。「成人の日」に、「はたちの集い」をしないで、「はたちの集い」と「成人の日」をこのように分けるのもいいのかなと思いました。垂水市は「成人式」を5日にやってきましたが、鹿児島市はこれまで、「成人の日」の当日に「成人式」を行っていたと思いますが、今回、このように「はたちの集い」と「成人の日」を分けて考えると、ややこしさがなくなるなど感じたところでした。

また、「成人の日」に「はたちの集い」をしたら、成人年齢は18歳になったのだから、18歳の人のお祝いはどうするのだろうと思ったりもした。

令和5年の二十歳の門出を祝う式典が、県内各地区で開催されました。垂水市でも昨年までの「成人式」を「二十歳のつどい」に名称を変更し、1月5日に開催されました。成人年齢が18歳に引き下げられての措置が、「二十歳のつどい」という名称になったものと思われませんが、「成人式」という名称がなくなってしまったことは、少し残念に思われました。

垂水市の「二十歳のつどい」ですが、従来の成人式と何ら変わりなく、振り袖姿の女性や袴姿の男性の姿が式典を楽しませました。「二十歳のつどい」のタイトルにありましたが、「両親や恩師などから受けた知恵や恵みなどに対して『ありがとう』という気持ちを持ちながら、これから生きていきます。社会に出る一歩を踏み出します。」とした、「報恩謝得」という言葉に、今年二十歳になった皆さんの気持ちが表れているようでした。二十歳の主張の中で、「小濱さんは、大学でサッカーをやっているが卒業したら教師になる。中馬さんは、今年から保育士になって子供たちを育てていく。川畑さんは、一流のパテシェになるために努力している。そして、森山さんは、今年からホテルマンとして働いていく。」と、皆、それぞれの夢を熱く語ってくれました。

これからの日本を背負っていく二十歳の若者が「報恩謝得」というか、今まで育ててもらった両親や地域の人々、そして地域の垂水市に感謝し、これからの時代を創っていく。これからの人間を育成していく。また、自分自身も磨いて成長していくんだと語ってくれました。

本当に頼もしい、二十歳の若者たちの式典だったのではと思いました。

田之上委員

1月5日の「二十歳のつどい」につきましては、晴天に恵まれ、晴れ着姿のにこやかな笑顔で、二十歳の節目を迎えられた皆さんの門出を一緒にお祝いすることができてよかったなと思いました。「はたちの主張」では、4人の皆さんが、この自然豊かな垂水に生まれ育ったことや、地域の人達が挨拶をしてくれてうれしかったことなど、思い出を語りながらふるさとへの感謝の気持ちを述べていました。そして、これから自分が進んでいく道を真剣に考えていて、とても頼もしく思うことでした。

また、恩師からのビデオメッセージに加えて、会場にお見えの先生方か

ら直にお話を聞くことができた事もよかったなと思いました。その中で、「生きていく中でどうしても辛くなったら、僕に連絡をしてね。」とおっしゃった先生がおられました。また、若い先生は、「大人は楽しいよ。」と子供たちにメッセージを送ってくれて、二十歳の皆さんの心に響いたのではないかと思うことでした。彼らの未来が幸せであるように祈ることしかできませんが、本当にそう願っております。

それから、12月のことになりますが、全日本フェンシング選手権大会は、本当に寒い時期でしたが、事務局職員、ボランティア等スタッフの皆さんの協力の下、盛大に開催され熱い戦いが繰り広げられました。本当にお疲れ様でした。

また、決勝戦の入場は、音楽と光の演出で決勝に出られた選手たちを盛り上げているようでとても素晴らしかったです。国体の本番を楽しみにしているところです。

#### 福里委員

12月16日に開催された全日本フェンシング大会の見学に行かせてもらいました。感染症対策もしっかりされていて、安心して見学することができました。息子も大会のボランティアとして参加していたので、朝、会場に送って行きましたが、その時に、「こんなに大きな大会だったんだ。こんな大きな大会が垂水で行われるというのはすごいことだな。」というふうに感じました。

1日目の決勝戦を見させていただきましたが、始まる前のオープニングがとても華やかで、決勝に進んだ選手だけでなく、監督や審判も紹介されていました。こういう場面は滅多にないことだと思うので、紹介された方々は嬉しかったのではないかなと思いました。ボランティアに行った息子は、どこにいるのかなあと思い、捜したのですが見当たらず、そうしている内に、決勝戦の曲が流れ出したら、上の人がわっと出て来て、すごい喜んでたので、こちらまで嬉しい気分になり、すごくいいなと感じました。

また、園児の中にも観戦に行った子がいて、「フェンシングってカッコいい。私もやりたい。」という子もいました。やっぱり身近で観戦するということは、すごく影響力があったんだなというふうに思いました。

息子もボランティアで2日間参加させてもらいました。初めての経験だったので、とても疲れて帰って来たのですが、すごく色々な話をしてくれて、いい経験になったと言っていました。それと、あの貰ったジャンパーをすごく喜んでいました。次も参加すれば、ベストが貰えるという話を聞いてきて、次はそのベストを狙って参加していくのかなというふうに感じたりもしました。何かこう、すごくご褒美的なものがある感じが、本人も楽しいらしく喜んで帰ってきました。本当によい経験になったんじゃないかなと思います。

次に、子供たちは例年より少し長い冬休みを過ごしました。4年生の娘は、殆どがタブレットでの宿題ということになりました。今までそんなにタブレットを持ち帰ったこともないのに、PTAで担任の先生から冬休みはタブレットで宿題を出しますという話がありました。保護者の方から、「大丈夫ですかね？」と聞かれたので、「私はもう心配で仕方ありません。」と即答しました。自分が操作出来ないの、大丈夫かなとい

うふうに思っていたのですが、「自分でできるように、そこまで学校で仕上げてから子どもたちにタブレットを持たせます。」と担任の先生が言ってくださいました。心配でしたが、意外と子供はよく理解していて、子供の方がスムーズに操作していました。紙での宿題もあったのですが、娘に、「タブレットの宿題と紙の宿題とどっちがいい？」と聞いたら、「タブレットの宿題の方がいい。」と本人は言っていました。やっぱり遊び的な感覚でできるからか分かりませんが、ナビマで算数の宿題をしてのですが、算数は一度間違えると、また最初に戻るんですかね。それなので慎重にやらないといけないうことで、すごく慎重にやっていました。父親は初めて娘がナビマで宿題をするのを見て、一緒にやりだしたのですが、小数点の計算の時にちょっと分からなくなったそうです。しかし、分からなくなった時は、解説みたいなものが付いていて、それを見ながらできたんですけど、父親は初めて見たので、すごくいいねって感動してました。これまで、あまりタブレットを持ち帰って来なかったにも関わらず、先生もよく思い切ったなと私が思うくらい、たくさん宿題が入れてありました。

今後もそういう機会があるといいなって思いました。PTAの中で、先生から、「垂水小は遅れているんです。やっぱりなかなかできないので。」って言われたのですが、実際に息子の時は、このGIGAスクール構想が始まってそんなに日が経っていませんでした。中学校に上がっても、あまり経験差は感じられませんでした。しかし、実際に新城小学校で4年生の子がタイピングをしている画像を一度見せてもらったことがありましたが、果たしてこの子が中学校に上がった時に、娘達はこの子と同じような操作ができるのかなと思いました。しかし、よくも悪くも垂水小学校の子が遅れているので、中央中の大多数が垂水小学校の子だから、そこはそんなに心配ないのかなって思ったりもします。娘が中学校に上がるまであと2年ありますが、果たしてあの子のレベルまで持っていけるのかなと今の経験不足からして、心配しているところです。実際、垂水小学校の先生方は他の小学校の子はこんなにできるんだということを知ってらっしゃるのかなと思います。それこそタイピングだったり、娘のクラスだとタイピングで打つ子もほとんどいないと思うし、ペンでしたりとかすると思うので。

先生方ももう少し、ただ遅れていると言うだけでなく、他の学校の状況も把握していただき、タブレットを有効活用してもらえたらなって思います。社会とか理科では、ほとんどタブレットを使わないと娘が言っていました。だから宿題も多かったみたいです。今までタブレットを使ったことがない上に、社会・理科は、すごく単元が多いので、宿題もすごく多くなっていた状況でした。これからも、子供が困らないような感じでいろいろな方法で使ってもらえるといいのかなというふうに感じました。

息子は総務として、2学期の思い出と3学期の目標を終業式の日校長室で読みました。担任の先生が何回も添削をして下さって、何度も練習をしていきました。最初に書いたときは、「あなた、これ、さっきも書いたんじゃないの。内容が薄い。」とか言われて、でも、本当に何回も何回も添削をしてくださいました。練習も何回も昼休みにしてもらっていました。本人は最初ブツブツ言っていたんですけど、先生が、「日に日によくなっているよ。」っていうふうに声を掛けて下さったことで、途中何回も心が折れそうになったが頑張る事ができたようだ。また、終わった時に担任の先生が、

「あなたすばらしかったよ。」って一言言って下さったようで、その一言でもう本人は嬉しかったのか、先生がそんな風におっしゃって下さったと言って、自信にも繋がったんじゃないかなと思いました。

冬休みに、二人とも和田英作絵画コンクール出品に向けて、絵を描いていました。私自身はそんなに絵が得意じゃないので分かりませんが、なかなか難しいみたいで、何日もかけて色塗りをして、やっと自分の描きたい絵が描けたと、本人達はとても嬉しそうに今日学校へ持っていきました。学校で一つ一つの経験が子供たちの成長に繋がっていて、うれしく思います。3学期も元気に学校に通ってくれるといいなと思います。

教育長

今年は兎年ということで、子供たちも学校の先生方も、また学校が飛躍活性化する年になって欲しいなというふうに思います。

「二十歳のつどい」につきましては、先程来、委員の皆様から話がでている通り、式に臨む態度も非常に立派でしたし、きちっと使い分けができる、まさに大人だなと思うことでした。「はたちの主張」もいっぱい名言があって、思いが込もっていたなというふうに思いました。先程も申し上げましたけれども、実行委員のみんなの思い、情熱、実行力がまさに伝わる、すばらしい式典だったと思っています。

1月6日に垂水市の消防出初め式がございました。年々、消防団の方々の人数が減っているような気がして、非常に気になるところです。議長のお祝いの言葉の中では、250人弱ぐらいの団員数とおっしゃいましたけれども、当日数えてみたら、約半分の118人ぐらいしか参加しておられませんでした。風邪を召されたのか、コロナの影響で参加を控えられたのか、いろいろ理由があることでしょうか。その中で、江の島幼稚園の子供さんも参加して下さっていましたが、幼稚園の子供たちの「防火の誓い」はいいですね、子供たちが参加することで、大人がまた安全・安心に気をつけるということにも効果があるのかなと思うことでした。また、垂水中央中の吹奏楽部の子供たちが、生の演奏をいつもしてくれて、やっぱりこれも感謝ですね、ありがたいなと思いながら聴いていました。例年、勤続何年何年という形で表彰される団員の方と、長年、団員を支える奥様を「内助の功」という形で表彰されるというところで、やっぱりこういうのも大事なことだなと思います。消防出初め式、無事に実施できてよかったなと思うことでした。

あと、校長会で私が申し上げたのは、「今、学校の役割って何か。あるいは、学校の意義って何か。今一度、考えてみませんか。」と言うことで、私は五つのことを言いました。五つ以外にもあると思いますよねということも投げ掛けながら、学校の役割・意義について、最初に、「学校は当然学ぶところだ。」ということを行いました。具体的に言うと、「できること」とか、「分かること、分かったこと」を増やすところだということですね。逆もありますよね。「分からない、できないことに挑戦するところ」でもある。では、結果としてどうなればいいのか。「学ぶことが好きになる。」このことが一番大事じゃないでしょうかねということも申し上げました。

1番目は、「学校は学ぶところ」です。

2番目は、「自分の居場所があるところ」。つまり一番自分らしさが発揮できるところ、或いは自分が行って気持ちが安定するところ、或いは、気が休まる場所。今流行の言葉で言うとウェルビーイングの場でもあるという話をしました。

3点目は、「人間関係をつくる場所」。友達と協力して、物事を進めたり、時にはぶつかり合ったりもしながら、人間関係を深めていく、築いていくところだという話ですね。あと、自分の考えをしっかりと伝え合うところだと。学びにおいてもしかり、学校生活においてもしかり。学校から帰ってからの遊びにしてもしかりですね。そういう場で人間関係をつくる場所だと。

4点目に申し上げたのは、「自己肯定感を高める場所」だと。先程、自信という言葉も出てきましたけれども。全ての子供によさがあるということからいきましょう。それを気付かせる場所が学校であるということですね。気付かせるのは誰かっていうと、学校以外もあるわけですね。自分自身で見つけられたらこれもいいですよ。友達からかもしれませんね。先生かもしれません。保護者だったら、尚更関係性がよくなりますね。地域の大人なんだってありますよね、というふうに多くの方々がやはり気付かせる。そうすることで自己肯定感を高めていくというところは、今求められているのかなと思っています。

5番目に、「失敗してもよい場所」だと、どんどん失敗しなさいと。その一方でまた成功体験も大事ですよ。両方大事だということなんです。世の中に出て、誰でも間違え失敗もする。だけど、それは早ければ早いほど、克服していくということは、育てていかないといけないなという話をしました。よく、「学級こそ、最も間違っているところ。」と言われてるんですけども、学級が果たしてそうなってるのかなと、今、考え方にもよるんでしょうけれども或いはその集団にもよりますよねというようにところを大きく5点話をしたところでした。

そういうことも、意識しながら学校経営を進めて欲しいというところなんです。要は私が一番言いたかったのは、考えてみると、「学び」と、やはり「自分の心」をどうつくっていくのかというその部分だったんだろうなと思っています。

ですので、学びも大事、だけど、最後は人間としての心、人間性と言ってもいいのかもしれませんが、そういうものをやっぱり学校は育てていく場だよということをもう一度考えて欲しいというところで話をしたところでございます。

教育総務課長  
学校教育課長  
社会教育課長  
国体推進課長

12月9日から1月10日までの主な行事等について各課長が報告。  
併せて、1月11日から2月9日までの行事予定についてお知らせした。

6 閉 会

